

高校受験がないので、中学生の頃から大学受験に関する授業を受けることができました。そのため、高校3年生になってからは多くの授業で演習問題に手を付けることができます。また、実験や観察など自分でやってみる講座も多くあるため、知識以外の部分も養うことができます。勉強していてわからない問題があると、私に関わったことがないような先生でも嫌な顔せず私にわかるまで何度も丁寧に教えてもらえました。課外も充実していて基礎の部分から応用の部分まであり、自分に合った課外授業を受講することができます。また、普段、自主学習では対策しきれない部分を課外で補充できるため、効率よく勉強ができます。私が参加していた医学コースでは、病院実習や小論文・面接講座、医系論文作成などがあり、これらは入試の面接の時にとても役に立ちました。このような経験をしている高校生はあまりいないということを知り、ますます茨高の医学コースの特別さが分かりました。私が医学部を目指し、どこを受験するか悩んでいた時、主に医学コースの担当の先生が丁寧に調べてくれて、自分が受かりそうな大学を教えてもらいました。また、過去にその大学に合格した先輩を紹介してもらい、先輩の話を聞いて、どのような勉強をしていけばよいかなど、様々なアドバイスをもらうことができました。

部活動では、先輩と後輩の仲が良かったため、年齢が異なっても気軽にアドバイスをもらいに行ったり、逆に先輩から話しかけてもらえます。また同じ部活動の先輩で自分の目指している学部合格した人だと、その先輩に勉強面以外のことでもいつでも相談することができます。中学3年生の時、3泊4日で奈良・京都研修旅行に行きました。京都の大学に行っていた先生もいるので、京都のマイナーな所に行くことができました。また、個人のグループで活動できるため自分の行きたいところにも行くことができます。高校では新型コロナウイルスの影響で残念ながら研修旅行に行くことができませんでした。文化祭は、学年が上がるごとにクオリティーが上がっていき、高校3年生の出し物はお化け屋敷やジェットコースターなど様々な種類があり、とても楽しむことができました。また、自分のクラスで出し物を作り終える頃には、クラスが普段以上に団結し、達成感を得ることができます。クラスマッチも新型コロナウイルスの影響で高校1年生の頃にしか開催されませんでした。サッカーやバスケットボール、トランプやジェンガなど様々な競技があるため、運動が苦手な人でも楽しむことができます。

茨中・茨高は同じ入試で合格した生徒たちが集まるため、勉強に対するやる気や熱意がとてもあります。そのため中学生という早い段階から勉強に対する意識を変えることができます。そのおかげで入学当初は下から数十番だった人でも大学受験前には上から十番前後の成績をとれるくらいに成長できます。同じ大学・学科を目指す人が多数いるため（特に医学部）、その人たちと共によい刺激となり、何事に対しても一生懸命頑張るようになります。6年間同じ学校にいることになるため、友人との絆を深めることができます。

大学進学後は、まずは授業などで周りの人たちに置いて行かれないようにやるべきことを後回しにせずに行っていきます。また、サッカー部に入り、将来医師になって、すぐにばてないように体力や精神的な所を鍛えていきます。そこでも高校でできたことやできなかったことを大学では改善して高校時代よりももっと文武両道ができる人になります。大学卒業後は、茨城県で一人でも多くの人を救うことができるような救急医となって、誰から見ても恥ずかしくないような医師になれるように精進します。